

来店客の野菜摂取量増加  
ベジメータ売場設置で

LCジャパン

野菜の摂取状況を測定  
する装置「ベジメータ」  
(光学皮膚カロテノイド  
量測定装置)を取扱うL

LCジャパン(前田学社  
長、横浜市西区)は、ス  
ーパーの青果売場に同装  
置を設置することで、来  
店客の推定野菜摂取量が  
約70%増加した事例を発

表した。

「ベジメータ」は、光  
を指先に10秒間照射し、  
野菜摂取量と相関する皮  
膚カロテノイド量を測定  
することで、野菜摂取状  
況をスコア化し評価する  
装置。

今回発表したのは、新  
潟県でスーパーを展開す  
るマルイ(清水辰雄社  
長、本社・新潟県見附  
市)の取組み。

昨年7月より、女池店

(新潟市中央区)と分水  
店(燕市)の2店舗で青  
果売場に「ベジメータP

ro」を設置した。1月  
までの6か月間に合計延  
べ3万人が測定に参加  
し、平均推定野菜摂取量  
は分水店で72%増加し3

14%に、女池店で41%  
増加し330%となり、  
国の目標値である1日の  
野菜摂取量350%に近  
づいたことがわかった。  
タブレットPC内に記録

保存されたベジスコアか  
ら算出した。

マルイの青果売場で  
は、機能性表示や毎日無  
理なく取入れられるメニ  
ュートをPOPで掲示する  
などの工夫も行ってい

る。今回、効果が確認さ  
れたことを受け、追加で  
12店舗に「ベジメータP  
ro」を設置。県内9市  
において来店客の野菜摂  
取促進を展開している。